

J R 北海道の重大事故・トラブルの徹底した原因究明と安全運行を求める意見書

2011 年 5 月に発生した石勝線清風山信号場トンネル内の脱線火災事故をはじめ、一連の重大事故・トラブルにより J R 北海道への信頼は大きく揺らいでいます。

同社は、国土交通省に再発防止策を提出し、その会見で野島社長は「老朽化した車両のメンテナンスが十分におこなわれていない問題があった」と不備を認め、整備時間の確保に努めることを表明しています。

同社は、11 月から札幌―函館間は事故前の上下 22 本を 18 本に、札幌―釧路間は上下 14 本を 12 本に減らし、最速 130 キロで走行する特急の減速運行などを決め、道内交通の大動脈ともいえる鉄道輸送体制がこれまで通り維持されるのか、少なくとも道民は不安を感じています。

何より乗客・利用者の命と安全を第一とする公共交通機関として一刻も早い再生をめざし、事故原因の徹底究明と再発防止策を講じ、運行の安全確保に万全を期すことです。

事故原因の究明が進むにつれて、整備や保安分野で技術継承がされていない問題、他社と比べて老朽化が目立ち電気制御装置が付いていない危険エンジンの改修・更新の必要性など、様々な問題点が浮上しています。

よって、J R 北海道が利用者の信頼を取り戻すために、国に対し以下の対応を強く求めます。

記

- 1 事故原因の徹底究明と事故防止策の作成を急ぎ、情報公開を行うこと。
- 2 車両・設備の更新に必要な技術的、財政面の支援強化をはかること。
- 3 車両の検査体制は、積雪寒冷地、長距離運行という北海道の特徴に合わせた内容とし、検査機関の規制緩和は行わないこと。

以上、地方自治法第 99 条の規定により意見書を提出します。

平成 25 年 9 月 27 日

北海道名寄市議会

衆議院議長
参議院議長
内閣総理大臣
国土交通大臣

} 宛